



SALVATIONIST

とぎのこえ

2026年標語「火を燃え立たせ続ける」(出エジプト記27章20～21節リビングバイブル)

二〇二六年三月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



陽春号

広報版

2026

March-April

No.2903

2026年 救世軍標語

「火を燃え立たせ続ける」

「…絶えずともしびを燃やし続けなければ
ならない。…これはイスラエルの永遠のお
きてである。」

出エジプト記 27章 20～21節
(リビングバイブル)



克己週間	3月 1日～15日
レントに入る	2月 18日(水)
受難日	4月 3日(金)
イースター	4月 5日(日)

と きの こ え SALVATIONIST

陽春号 広報版
2026 March-April
NO.2903

もくじ

- メッセージ
わたしは復活であり、命である
大将 リンドン・バッキンガム ……3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第42回
新しい愛
大将 ショー・クリフトン ……5
- 集会報告
初野戦 ……6
- 寄稿
救世軍スープロジェクトが発足
金子 攻 ……6
- 各地のニュース !!
東京東海道連隊 ニューイヤーラリー ……7
- 2025年末 各地の社会鍋 ……7
- 新兵士の証言
奥山麻夜兵士、田辺勇子兵士 ……8
- 克己週間 2026 ……8
- 各地のニュース !!
渋谷小隊、NewHope コミュニティセン
ター、関東東北連隊 ……9
- YP(青少年部)・ファミリーニュース
新成人お祝い、横浜小隊、八幡小隊 ……10
- 杉並小隊 ……11
- 各地のニュース !!
仙台小隊 ……11
- 社会鍋による支援
遠軽小隊、札幌小隊、横浜小隊、前橋小
隊 ……12
- 〈連載・第37回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
聖礼典について ……13
- 救世軍見解表明
社会道徳に対する救世軍の立場
第20回「家庭内虐待」(1) ……14
- 召天記事、救世軍公報 ……15
- 各地のニュース !!
江東小隊、士官の離日 ……16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：2025年末、
北海道・札幌での社会鍋

イースター・メッセージ

わたしは復活であり、命である

大将 リンドン・バッキンガム



それはグッド・サタデー（良い土曜日）でした。あるいは、そうではなかったでしょう。正直に言えば、悲惨な結果になっていたかもしれない。始まりは決して良いものではありませんでした。私は心筋梗塞（こうそく）を起こしました。かなり重篤な発作だったようで、妻のブロンウィンにとっては恐ろしい出来事であり、そして、ええ、私自身にとっても深く心を揺さぶるものでした。これで終わりなのか。私の時は来たのか。主はこのようにして私を御許（みよこ）に召されるのか。子どもたちはどうなるのか。孫たちはどうなるのか。ブロンウィンはどうなるのか。私の奉仕はどうなるのか。まだ果たさなければならぬことが残っていました。これは良い土曜日ではありませんでした。恐ろしく、暗く、恐怖に満ちた一日でした。

それでも、実際のところ、それは良い土曜日でした。昨年十月のあの日を振り返ると、私はその恐ろしい一日に起こった奇跡を祝わずにはいられません。適切な時に、適切な人々が介入してくれました。行動へとつながったクリスチャンの思いやり。救世軍兵士である美しい看護師、そしてその友人であるクリスチャンの循環器専門医。命を救うための介入、さらには、すべてが良くなるという神ご自身からの約束さえありました。神の時は完全であり、その摂理は豊かでした。ですから、起こった出来事を深く顧（か）みると、結局のところ、それはやはり良い土曜日だったのだという結論に至りました。

私は若いジュニア・ソルジャーであった頃、イースター物語における「良い」（グッド）という言葉の使われ方に戸惑いを覚えたことを思

い出します。グッド・フラデー（受難日）——イエスが十字架につけられた日です。どうしてそれが「良い」と言えるのでしょうか。ごまかしてはいけません。それは恐ろしい日でした。不当な有罪判決、残虐な拷問（ごうもん）、絶え間ない痛みと苦しみの日でした。十字架は、神の小羊に対して用いられた、悪魔の武器でした。恐ろしく、醜（みにく）く、許しがたいものでした。しかし、その日の出来事はそのとおりだったとしても、さらに深く見るならば、私たちは神ご自身が働いておられるのを目撃します。神は、物理的な十字架に象徴される純粋な悪の顕現、その残酷性すべてに対して、悪と罪、そして、そうです、死そのものを打ち破る贖（あがな）いの愛をもって向き合われました。神は醜（みにく）い金曜日を、まことに「良い金曜日」へと変えられたのです。

これを理解してください。ほかに何が起ころうとも、イエスご自身は愛によって動かされていました。イエスは、全人類への愛ゆえに、あなたと私への愛ゆえに、十字架へと向かわれました。使徒パウロはローマの信徒

への手紙の中でこう記しています。「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対して愛を示されました。」（ローマ5・8）キリストは、世の罪をご自身の身に負（お）うことによって、神の愛がどれほど大きなものであるかを示されました。この金曜日、イエスは愛によって動かされてきました。真実はこうです。神は私たちを愛しておられ、イエスこそがその証しなのです。

ヘブライ人への手紙の著者はこう問いかけています。「これほど大きな救いに対してむとんちやくでいて、どうして罰を逃（のが）れることができましょう。」（ヘブライ2・3）預言者イザヤはこう記しています。「彼の受けた傷によって、わたした



「ちはいやされた。」(イザヤ53・5) 確かに、それは神秘的です。何とも不思議で神秘的な仕方、グッド・フライデーの出来事は、私たち自身の癒し、救い、救い、そして神の子とされることの鍵を内包しています。贖罪は、全能の神ご自身に抱きしめられることを可能にします。愛によって動かされたイエスは、私たちの回復、贖い、和解を可能にされました。私たちは癒され、救われ、愛されています。

グッド・フライデーの出来事を勝利として見ることは難しいかもしれませんが、しかし、それが真実です。第一に、それはイエスにとつての勝利です。イエスは十字架の死に至るまで、忠実であり、従順であられました。「成し遂げられた」とイエスは宣言されました(ヨハネ19・30)。使命は完了しました。すべては成し遂げられました。罪と死の力は打ち破られたのです。

第二に、カルバリの勝利は、悪の敗北です。イエスが罪と悪に勝利されたその勝利は、私たちの勝利ともなります。私たちは復活のこちら側に生きているがゆえ

に、主の正しさが証明されたことを喜び祝うことができます。主は死に勝利し、永遠に生きておられます。その勝利は私たちのものとなります。イエスご自身がこう言われました。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」(ヨハネ11・25・26)

イエスは肉体の死の現実を認めつつも、信仰によってご自身に属する者たちに対して、死が最終的な言葉をもたないことを宣言されます。これは、死がもはや壁ではなく、扉であることを意味します。死はその究極的な力と恐怖を失い、イエスが与える命から人を切り離すことはできません。永遠の命とは、単なる長さではなく、質であり、次元です。それは神の臨在に満たされた命であり、私たちがイエスに信頼を置くその瞬間から始まるのです。

結局のところ、それはまさにグッド・フライデー—良い金曜日—だったのです!



皆さん一人ひとりへの私の祈りは、世の救い主であり、神の子であるイエス・キリストというお方において啓示された、神の愛の現実に心を奪われ、その愛を自ら体験されることです。神の祝福がありますように。

(万国総督)

●万国本営へ大將が復帰

リンドン・バッキンガム大將は、2025年10月18日(土)、香港滞在中に突発的な健康上の緊急事態に見舞われ、心臓への血管形成術(冠動脈形成手術)とステントの挿入を受けられました。その後、大將とブロンウィン中將はニュージーランドの自宅に戻り、完全な体力回復のための療養を続けられていました。大將は自宅で執務をおこない、各種会議の議長をオンラインで務め、大將事務室及び参謀総

長事務室と定期的に連絡を取り、この期間中も、万国本営の働きと救世軍の万国的業務は平常どおり継続されました。

その後、大將は順調に回復され、2026年1月上旬にご夫妻は英国へ戻り、万国本営での執務に戻られました。現在は、3月にケニアのナイロビで開催される万国指導者会議に向けて祈りつつ準備をしておられるとのこと。引き続きご健康が支えられますようお願いください。

ロンドンの万国本営へ戻り、復帰の挨拶をする大將



司令官 スティーブン・モーリス大佐
軍国女性部会長 ウェンディ・モーリス大佐

送別集会

2026年4月5日(日) 午後2時30分

会場：山室軍平記念ホール

*オンラインライブ配信予定

*詳細は伝道事業部からの案内をご確認ください



連載 聖潔の流れに立つ 第四十二回

新しい愛

大将 ショー・クリフトン

第一章…救世軍主義

聖潔と救世軍主義の譲れないもの

挑戦的な問いが投げかけられた。「救世軍の賞味期限は切れてしまったのではないか？」 私は公の場で説明を求められていた。救世軍が裁判にかけられており、私とその弁護人であるかのように感じられた。主が私を助けてくださった。まず問いを明確にすることが必要であった。問いを発した人々は救世軍についてかなりの知識をもっていた。彼らは私たちの組織や手法、教義や方針を知っていた。したがって、それは組織としての救世軍についての問いというよりは、むしろ「救世軍主義」の本質を解き明かそうとする試みであった。救世軍と救世軍主義を混同しないことが重要である。

もし「救世軍」がその名で知られる教会組織、すなわち福音派の教会であると同時に社会福祉団体でもある広大な国際組織を指すのであれば（筆者の『救世軍人とは誰か？—二十一世紀のための分析』ヘクレストブックス、一九九九年刊）を参照）、一方で「救世軍主義」は、救世軍に特有な様々な際立った特徴の総体、あるいは組み合わせてある。救世軍主義とは、特定の態度、特有の世界観を表す言葉である。それは、信念、姿勢、献

身、召命の混合体であり、それらが組み合わさったとき、宗教的か世俗的かを問わず他のいかなる団体にも見られないものを意味する。

したがって、問いかけはこうであった。「救世軍主義の賞味期限は切れてしまったのではないか？」

これに十分に答えるためには、救世軍主義の定義しがい意味を解き明かす必要があった。「救世軍主義とは何か？」という問いは、「救世軍とは何か？」という問いと同じではない。後者は私たちの歴史、手法、組織に言及することによって、かなりうまく答えることができる。一方で救世軍主義は、それらのすべての根底にあり、それらを支えているものである。それは私たちの鼓動であり、心音である。それは、神によって召された独特な民として私たちを形づくっている「譲れないもの」についてである。（本稿では「譲れないもの」と「特質」を同義語として用いている。）

救世軍主義は神によって創案された。救世軍は神によって起こされ、神は救世軍主義を聖なる委託として救世軍にゆだねられた。ゆえに、救世軍は、救世軍主義の神聖な任命を受けた管理者である。すでに述べたように、一方を他方と混同しないことが重要である。

神への従順

したがって、本稿は救世軍主義の本質を再定義する試みである。その再定義の中心には聖潔が置かれる。キリスト教団体として、私たちの特質を明確に言葉にできることは依然として重要である。今日、教派特有の性格を軽視するよう求める声があるが、それによって私たちが進路をそらされることがあってはならない。教派主義がクリスチャンの間の有害な障壁となり得ること、また実際にそうなってきたことは事実である。例えば北米には、約一万五千もの教派や団体が存在する。だからこそ、私たちは次世代に至るまで、神が私たちという民を特別に扱ってくださっているという光に照らして、自分たちが何者であるかを理解する必要

がある。私たちは、自分たちが他者より優れていると宣言したり、誰かを指差して非難したりすることを生業としてしているのではない。しかし、私たちは間違いなく、第一に自分たちがどのような存在であるべきかを知り、第二に神に従うことを使命としている。もし神が、ご自身のために私たちを独特な民として呼び出されたのであれば、私たちは不従順というリスクを冒すことはできない。もし神が私たちに徹底して救世軍人であることを望まれるのであれば、私たちはまさにそのとおりになる。私たちは救世軍主義の証しを保持し続け、それを些細なものにしたり消し去ったりしようとする試みに抵抗する。

私が念頭に置いている証しは、五大陸で救世軍の任務に就き、世界中の救世軍を広く旅した後に抽出されたものであるが、それはしばしば主張されるような事柄ではないかもしれない。例えば、ブラスバンド、階級、軍隊用語、あるいは音楽といったものを私は考えているのではない。私たちはより深く掘り下げる必要がある。救世軍主義の永続的な印は、手法やプログラム、あるいは外的な意匠と同義ではない。通常、これらは目的に対する手段に過ぎない。もともと、そのいくつかは、当然のことながら私たちにとって親しみ深いものになっているとしてもである。

（続く）

*今号より、第十八代万国総督ショー・クリフトン大将著『新しい愛』（二〇〇四年発行、フラッグ・パブリケーション）の翻訳掲載を開始します。救世軍の聖潔の流れを二十一世紀の視点からとらえ直している著書です。ご期待ください。



集会報告

初野戦

1月4日(日)午後2時30分 上野恩賜公園 カエルの噴水前

新年の賑わいが続く日曜日の午後、晴天のもと初野戦がおこなわれました。ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の前奏に公園を散策する方々も足を止めていました。定刻、副財務管理部長勝篔隆少佐の司会で開会。『救世軍歌集』15番「神のこころの奥底に」を歌い、人事・教育部長添田美和少佐が開会祈禱を献げました。司令官スティーブン・モーリス大佐が挨拶をし、新年の恵みと祝福があるよう述べました。『救世軍歌集』355番「きかずや やさげびのこえ」をJSBの伴奏で歌い、続いて、社会福祉部長石川一由紀少佐が社会鍋のお礼と報告をしました。東京地区の12月中の社会鍋の結果4,872,964円が報告され、12月から実施している街頭給食の様子についても紹介しました。

JSBの演奏「主われを愛す」に続き、ヨハネ3:16を青少年部長朝澤義人大尉が朗読し、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐がメッセージをしました。「世界で一番有名な御言葉と言われる聖書箇所。天の父なる神様は、独り子イエスをこの世界に与えてくださり、イエスを信じる信仰による救いと永遠の命を与えてくださる。わたしたちはこの世の目に見えるものに固執しやすいが、それは神の与えてくださる恵みに比べれば小さなもの。神から永遠の命を受け取り、神と共に喜びの中に歩いていきたい。どうかこの福音を受け取ってほしい」と、幼い子どものおもちゃのネックレスと本物のたとえ



司会の勝篔少佐



挨拶をする司令官と通訳の山谷少佐



メッセージ ウェンディ大佐

を用いて語りました。

閉会祈禱を軍国女性部書記西村和江大佐補が献げました。その後も、社会鍋のアピールとJSBの演奏が続き、通りかかる方々が協力してくださっていました。東京地区の戦友、士官も集い、新年の挨拶を交わす姿もあり、恵みのうちに散会しました。(参加者77人)



〔寄稿〕

救世軍スーププロジェクトが発足

救世軍スーププロジェクト 金子 攻

昨年7月、新たに発足した「救世軍スーププロジェクト」は、救世軍ブース記念病院から救世軍杉並小隊・総合センター別館(アネックス)に移転後運営を始めています。「救世軍スーププロジェクト」の「スープ」は、救世軍が活動を進める中で、その働きの「精神」を表した3S(Soup〔食事〕、Soap〔石鹸・衛生状態の改善〕、Salvation〔救い〕)の言葉を受け継いでいます。「救世軍スーププロジェクト」は、その食環境を支える仕事を受け持つために救世軍男子社会奉仕センターに属し、その一つの事業体として活動をしています。

移転した先のアネックスでは、1階の災害用の厨房を改築し、現在は年中無休で調理をおこなっています。厨房玄関を入れて右手の小ホールでは、近隣の施設職員の方々が昼食として利用できる「5つのパンと二匹の魚」の名称で職員食堂を整えました。このほか老人保健施設グレイスご利用者様の食事提供と特別養護老人ホーム恵みの家の入所者様の食事提供をおこなっています。平成9(1997)年から開始した地域高齢者向けの配食サービス「家族弁当」も事業を継続し、電気自動車を使って年

中無休、昼食・夕食を配達しています。

ほかに「5つのパンと二匹の魚」は、杉並小隊や山室軍平カレッジ(YGC)で開催される行事や集会などへのケータリング、施設の行事食もお受けしています。

昨年12月半ばから今年2月半ばにかけては、街頭給食の調理もおこないました。盛付は大ホールにて、救世軍本営や近隣の小隊、YGCの方々、各施設のスタッフの方々、一般の方のご協力をいただきました。街頭給食日は毎週、月曜日(大手町—200食)・水曜日(隅田川—150食)・金曜日(代々木公園—165食)におこないました。

「救世軍スーププロジェクト」が発足してご近所のパートスタッフに協力していただき、半年以上が経過しました。職員不在の組織である中、スタッフの個々の努力には頭が下がり、感謝の一言です。まだまだ食環境のサービスについては満足の域に達していません。今後もスタッフ一丸となり努力する必要を感じています。

今後の目標は、食環境のサービスの向上と組織の安定です。また、物価・人件費などの高騰が続く不透明の中、節約と工夫でサービスと経済性の両立を目指すことです。低コストの運営を維持・継続しながら近隣施設への食事提供を担っていきたくと思っています。人手不足のこの時代に言葉に出すのは容易いですが、苦難の先を見据えて進んでいきたいと思っています。「神は耐えられない試練は与えない」そうです。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

東京東海道連隊

●ニューイヤーラリー

1月11日(日)午後3時から山室軍平記念ホールで、各小隊から戦友方が集い、おこなわれました。司会は連隊本部付朝澤義人大尉。集った皆さんを歓迎し、近くの席の方々と新年の挨拶をしましょう、との声かけで、互いに挨拶を交わし笑顔がこぼれ、会場は和やかな雰囲気になりました。朝澤大尉が祈り、続いて賛美チームのリードで3曲(「いのちの光」、「希望の歌」、「聖なるかな」)を歌い、イエス様に心からの賛美を献げました。2025年に兵士、准兵士になった方々の紹介があり、続いて2026年の新成人のお祝いの時をもちました。連隊内では4人が成人を迎え、高畠瑠花さん(清瀬)が出席しました。美しい着物で壇上に上がった瑠花さんに司令官スティーブン・モーリス大佐から祝福の言葉があり、聖書が贈呈されました。ウェンディ大佐が祝福の祈りをしました。

証言は倉持メグさん(杉並小隊客員)がしました。モンゴルでの生い立ち、祖母を通して教会に導かれたこと、大学で学んだ日本語を用いて日本で働くことを示され、信仰によって日本へ行くことと決めたこと。様々な試練を経験したが、どのような時もイエス様の語りかけがあり、希望は断たれることがないとの確信を得ていること。日本でもモンゴル人の礼拝や教会につながり、夫と出会い結婚に導かれ、日本での主の働きに携われることを感謝し

ている、と、真実な主の導きを証しました。

献金の役割は各小隊の子どもたちが担いました。今年のテーマソング「燃やしたまえ」を賛美し、東京東海道連隊長中島美和少佐は、イザヤ45:3~6から、「光によって見いだす宝」と題してメッセージをしました。「この聖書箇所は、『暗闇に置かれた宝、隠された富』について教えている。神の宝は目の前にあるのに、私たちの無知という暗闇に覆われて見えないことがある。神は私たちの名を呼んでくださり、一人ひとりに神が与えてくださった役割がある。他者と比べる必要はなく、チームワークをもって、神の栄光を現す働きをしていきたい。神のミッションを遂行する力は、すでに神が与えてくださっている。私たちに必要なのは、聖霊の光に照らされ、神がどのような方であるかを知ることである。終わりの時には困難な時が来るが、すべての人に聖霊を注ぐという神の約束がある。神はいつも、私たちにご自身のことを知ってほしいと思っておられる。門は狭く道は細いが、主の導きに従うところに希望があり、勝利がある。聖霊の光に照らされて、宝を発見していく一年にしていきましょう。」



成人の祝福の祈り



証言 倉持さん



連隊長中島美和少佐



御言葉に応答して祈りの時が祝福され、恵の座に進み出る方々がありました。最後に「主は成したまえり」を一同で心から歌い、今も働いておられる主に希望をおいて賛美しました。礼拝後は地下ホールでお茶の時をもたれ、リラックスした交流のひと時をもち、恵みのうちに散会しました。

(参加者78人、恵の座12人)

2025年末 各地の社会鍋



北海道・札幌 吹雪く中での社会鍋



大阪・南海なんば駅前広場で



→ 東京・恵比寿



岡山・天満屋前で、岡山小隊、福山小隊



兵士入隊の証言

名古屋小隊 奥山麻夜

私は、神様は私が小さい頃から守ってください、導いてくださって、今の私がいるのだと感じています。というのも、私は、物心がつく前からカトリック系の児童養護施設で育ち、小学生の頃、クリスチャンである今の両親に里子として迎えられました。そのよう

なことがあったので、神様と共に生きていると言ってもいいぐらいです。しかし、小さい頃はそんなことを考えたことはありませんでした。里子になって、名古屋小隊に行くようになって、だんだんと神様を意識するようになりまし

た。今は、ユースキャンプなどのイベントに出たとき、聖書を読んでいるとき、お祈りするときに、賛美歌を歌っているときに神様を感じます。兵士入隊のきっかけは、大会の一年前に、小



隊士官から兵士入隊を勧められたことです。私は、神様が共にいてくださったからか、兵士になりたいかとは思いませんでした。私の心にはすくなくないけれど、なってみようかなという気持ちもありました。神様が共にいてくださることやイエス様が救い主であることを学んで、頭ではわかっているつもりですが、これからいろいろな経験をすれば、神様をもっと近くに感じられるのではと思います、兵士入隊を決めました。

兵士入隊の時、たくさんの方が、お祈りしてください。祝福してください。おめでとう」と言ってください。方もいて、私はすぐく恵まれていると感じました。多くの方に支えられて兵士になれたことは、私にとって良い経験になりました。正直に言うと、不安もありますが、神様を信じて進みたいと思っています。

兵士入隊のきっかけ

清瀬小隊 田辺勇子

私は今、七十歳代前半ですが、七年ほど前まではとても元気でした。風邪ぐらいにしかかからずにいたのですが、ある時、風邪が治っても体調が悪く、寝たり起きたり生活が続くようになりまし

た。受診したところ、働き過ぎと診断されました。いったん回復し、また仕事を始めたところ、立ち仕事だったため、腰を痛め、改善されることが難しくなりました。そのままでは、どんどん悪くなると思いました。

その頃、知人が小隊へ行っていると聞いて、私も通い始めました。当時の小隊士官にとってもよく話を聞いていただき、小隊に通うようになり、イエス様に祈っておりました。また、小隊で隣に座っていたNさんに声を掛けられ、知らない人だらけの中でほっとしたのを思い出します。Nさんは優しく私の話をたくさん聞いてくださいました。その後、彼女は北海道に行かれ、電話での連絡となりました。

ある日、寒い雨の日、身体に針が刺さったような痛みが走り、Nさんに電話をかけてしまいました。その日はお祈りしていただけるとい

うでした。翌日、起きてみたら身体が楽になり、とても不思議に感じたことでした。しかし、しばらく小隊には行かず、過ごしていました。

また働き始めましたが、無理がたたり、腰は痛くなり、大きな反省をしました。一念発起し、小隊へ行ったところ、Y少佐夫妻がいらつしやう、お会いするほどに楽しくなり、身体の調子が良くなり、感謝しかありませんでした。神様に寄り添っていただき、回復しているのが感じられました。歩きづらかったのが杖もはずれ、電車にさえ乗って出かけるようになるにもなってきました。故郷に帰省することも、久しぶりの親族との談笑もかないました。

現在の小隊士官にもお導きをいただき、いろいろな経験をさせていただいております。記念すべき百三十周年に兵士にならせていただき、感謝しております。これからも前向きに、楽しく小隊へ通えますように祈ります。



克己週間 2026

Self-Denial Appeal 2026

克己週間は毎年春（3月、4月）におこなわれる、海外での救世軍の活動を支援するための募金です。今回は南アフリカ軍国における「孤児及び要保護児童プログラム」活動に焦点をあてています。現地では、家庭内虐待を受けた子ども、障がい児、または病気の両親や祖父母と暮らしている子どものケアをおこない、学校の奨学金、制服の提供、家庭訪問による支援などを実施しています。これらの働きを支えるため、どうぞご協力をお願いいたします。

克己週間は受難週の時期におこなわれています。イエス様が担ってくださいました十字架の犠牲をおぼえ、わたしたちも自らを顧み、自分の時間や財産、お金を、だれかのために献げること

南アフリカ軍国（1883年開戦）

本営：ヨハネスブルク 司令官：トーベン・エリアセン中將
士官：255（現役158、引退97） 特務大尉：2 職員：432
連隊：8 小隊：152 分隊：50 大人部兵士：18,512
同友者：1,347 ジュニア・ソルジャー：3,872 施設：32



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

渋谷小隊

●クリスマスサンデー、兵士入隊

2025年12月21日(日)、クリスマスサンデーは渋谷小隊開戦プレ100周年として守り、司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出陣しました。

聖別会は勝寛実香少佐の司会で進められ、席上、田村みち子准兵士の兵士入隊式が司令官の司式でおこなわれ、皆で新兵士を歓迎しました。司令官は、「最暗黒の夜になおも輝く光」(ルカ1:26~38)と題して、「神の光はキリストを通して私たちのもたらされた。受胎告知されたマリアは『お言葉どおりこの身になりますように』と従った。私たちもまた、このクリスマスの時、『神様、私の光となってください』と祈る者でありたい」と御言葉を取り次ぎました。

礼拝後は参加者一同で100周年記念誌に載せるための集合写真を撮影しました。戦友をはじめ、初めての方や久しぶりの方、戦友のご家族など、多くの方で礼拝堂がいっぱいになりました。(63人、うちZoom9人、子ども5人)



午後の祝会は関根義也副曹長と悦子楽隊員の司会で進められ、おいしい食事をいただき、プレゼント交換の楽しいゲームをしました。そしてウェンディ大佐がクリスマスのお話をしました。最後に青少年部より子どもたちにプレゼントが手渡されました。(59人、うち子ども5人)



NewHope コミュニティセンター

●クリスマス会

2025年12月13日(土)に渋谷小隊を会場に、救世軍NewHopeコミュニティセンター主催のクリスマス会を開催しました。教室に来ている子どもたちや、そのご家族、総勢47人(スタッフ含む)が参加し、温かな雰囲気の中でクリスマスの喜びを分かち合いました。

今回はコンサート形式でおこない、ブラスバンドクラスに通う子どもたちが初めての演奏を披露し、有志による救世軍ブラスアンサンブルとの共演もしました。これらの子どもたちは教会に通ってはいませんが、音楽やウェンディ大佐によるメッセージを通して、キリストの愛と喜びに触れる機会となりました。このコミュニティセンターを通して、神様の愛と福音の種がまかれていることを感じています。小さな子どもたちの笑顔と演奏が、小隊の会館を満たす祝福された時となりました。



コンサート後はピザパーティーで楽しい交流の時をもちました

関東東北連隊

●新年合同聖別会

2026年1月11日(日)午前11時より、連隊内の各拠点をオンラインでつないでの新年合同聖別会がおこなわれました。

前橋小隊士官田口哲也少佐の司会で進められ、開会祈祷を眞鍋恵中尉(佐野)、田島佳子副会計(熊谷)が献げました。席上、3人の新成人者の紹介があり、張田和子中將が祝福の祈りを献げました(お名前は10ページに掲載)。続いて、2曲のテーマソングをそれぞれ、高崎小隊バンドと仙台小隊からの伴奏に合わせて歌いました。永尾晶仁兵士(仙台)、塚原貴代子兵士(桐生)、木村輝也兵士(若松)が証言をし、恵みを分かち合いました。連隊長細貝信義少佐は「火を燃え立たせ続ける」(出エジプト27:20~21)と題し、メッセージをしました。

YP (青少年部)・ファミリーニュース

祝成人 今年も救世軍各所で新成人をお祝いしました。

- 帯広小隊：川代大貴さん
- 高崎小隊：河野良太さん
- 前橋小隊：北村結衣さん
- 前橋小隊：田口雄聖さん
- 清瀬小隊：引地夏音さん
- 清瀬小隊：高畠瑠花さん
- 名古屋小隊：繁田温さん
- 名古屋小隊：永縄一揮さん
- 岡山小隊：武田学さん

おめでとうございます！



前橋小隊 田口雄聖さんに聖書が贈呈されました



ニューイヤラリー 高畠瑠花さんご家族 (記事7ページ)

横浜小隊 ●こどもクリスマス会

2025年12月6日(土)、こどもクリスマス会を開催しました。ふだん、「こども広場」や日曜学校に参加している子どもたち(小学2年生~中学1年生)8人が参加しました。

礼拝堂でクリスマスストーリーを聞いた後、第二ホールでクッキーをつくりました。初めてお菓子づくりをする子どもたちもいましたが、みんな一生懸命生地をこねて、思い思いに型抜き、トッピングをしました。その後、昼食を共に食べ、ゲームをし、クリスマスの歌と一緒に歌ってとても楽しい時を過ごしました。子どもたちの笑顔があふれる一日でした。幼い魂が主に触れられて育まれますように、戦友一同でこれからも祈り続けていきたいと思ひます。



←いろいろな形のおいしいクリスマスクッキーができました！

八幡小隊 ●こどもクリスマス会

2025年12月14日(日)アドベント第3週の午後おこないました。これは、中川嘉春兵士が町会長を務める山路松尾町内会主催のこどもクリスマス会を、小隊を会場にして、協力しておこなったものです。一昨年に続いて2回目でしたが、今回もその地域の子どもさんご家族と共に参加されました。ゲームやクイズ、クリスマスストーリーのDVD映像を通じて、イエス様の降誕をお知らせし、教会で祝うクリスマス体験していただきました。これには小隊の戦友も参加し、共に楽しいクリスマス会をもつことができました。(参加者 子ども6人、保護者4人、高校生1人、戦友8人)

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

仙台小隊

●市民センターまつりへの参加

2025年10月11日(土)、12日(日)、「南光台市民センターまつり」がおこなわれました。これは、地域交流の機会として市民センターが毎年開催しているものです。地元の学校・商店・団体などが、ステージ披露・出店・展示などを行っています。仙台小隊は11日に戦友が協力してバザー用品と福祉作業所のお菓子を販売しました。



また翌12日は、山岸信寛会計が所属し、主に仙台小隊会館で練習されているフォークバンド「フォークアドベンチャーズ」が好評で、今



年もまつりの舞台演奏の最後を担われました。戦友たちも聖別会後に大勢の聴衆に加わって、演奏を楽しみました。

●「チャペルでゴスペル」の開催

12月13日(土)、南光台地域子ども・大人ネットワーク、南光台おやじの会・南光台市民センター主催のコンサート「チャペルでゴスペル」が仙台小隊シャロームチャペルで開催されました。ゴスペルグループ「たんぽぽ」さんによるコンサートで、ゴスペルの名曲やクリスマスソングメドレーなどが披露されました。会場全員で一緒に歌う場面もあり、楽しい時間となりました。参加者からは「美しい歌声に心が洗われました」「初ゴスペル、素敵でした!」などの感想が寄せられたとのことです。



杉並小隊 ●献児式

2026年2月1日(日)の聖別会は、書記長官西村保大佐補と軍国女性部書記西村和江大佐補の出陣でした。席上、眞鍋時結ちゃんと樋口ひかりちゃんの献児式がおこなわれました。お子さんたちの健やかな成長と神様の守りを祈り、会衆一同神様の豊かな祝福に包まれました。



進級を祝う日曜日
日曜学校決心日
4月5日

子どもたちの新生活を祝い、
祈って応援しましょう



4月5日(日)~19日(日)
♪♪ 救世軍音楽週間 ♪♪

新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって
主は救いの御業を果たされた。

詩編 98 編 1 節

昨年11月22日におこなわれた「バンドレイジング・チャリティー・コンサート」の演奏が、
ジャパン・スタッフ・バンド公式 YouTube
チャンネルで公開されています!
どうぞご視聴ください。



INTERNATIONAL DAY OF CHILDREN
AND YOUNG PEOPLE 2026

IN THE
LIGHT



4月 子どもと青年の国際デー

*詳細は青少年部からの書簡、資料をご覧ください



社会鍋による支援 遠軽小隊

●各所へ支援品の贈呈

2025年12月19日(金)、北海道紋別郡遠軽町にある社会福祉法人北海道家庭学校の子どもたち14人にクリスマスプレゼントを、12月20日(土)には児童養護施設北光学園の子どもたち36人にクリスマスプレゼントを慰問品として贈りました。

年末には社会福祉協議会の協力を得て、地域の高齢者

一人世帯の方8人に年越しの食料品を支援しました。

2026年1月19日(月)、以前は遠軽小隊を会場にして実施していたこども食堂「キッズ・カフェ モグハグ」に食料品を支援しました。現在、モグハグは駅前のメトロプラザを中心に活動を継続されています。

「モグハグ」の代表・高橋さんに食料品をお渡ししました



札幌小隊

●各所へ支援品の贈呈

2026年1月13日(火)、札幌市においてホームレス支援の働きをしているNPO法人「ベトサダ」に、男性用の下着(Tシャツとトランクス)33点を寄贈しました。

1月16日(金)には、NPO法人生活相談サポートセンターの「ホープ」に、お米30kg、カップ麺100食、レトルト食品40食をお届けしました。



横浜小隊

●日用品・食料品配布

横浜小隊では、毎年1月2月に、社会鍋資金を用いて、生活困窮者に対して日用品・食料品の配布をおこなっています。彼らの生活形態の変化に伴い、ここ数年は温かいスープを提供するほか、保存できる食品や寒さをしのぐための衣類等を支給しています。今年は鶏つくね野菜スープが好評です！

この活動のために毎年外部からのボランティアの協力もあり、感謝しています。近隣の公園の一角に整列していただき、事前の説明と祈りをして始めています。配布するだけでなく、できるだけ受け取る方々と会話をし、私たちの姿を通して、神様の愛が流れていくように備えています。



前橋小隊

●老人ホーム、母子生活支援施設への支援

2025年12月23日(火)、小隊士官田口哲也少佐は前橋老人ホームを訪問し、施設長の井桁さんに入所者68人分の靴下のプレゼントをお渡ししました。

12月25日(木)には母子生活支援施設「のぞみの家」でのクリスマス子ども会をしました。黒崎将吾副書記が奏楽の奉仕をしました。入所されている15世帯にケーキをプレゼントしました。



〈連載・第37回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

聖礼典について

聖体拝領

聖餐式に関するする声明

- (承前) 5. キリストこそが真の聖体であり、生ける聖体なのだから、キリストがわたしたちのうちに、またわたしたちを通して生きておられることが、クリスチャンの聖性であり弟子となることである。
6. 救世軍はその歴史を通して、キリストの贖いの犠牲を礼拝の中心としてきた。
7. 救世軍では、あらゆる礼拝と毎度の食事において、キリストのご臨在を覚え喜ぶものであり、それは初代のクリスチャン、イエスと弟子たちが分かち合った簡素な食事に象徴される、共に生きることを表す機会と捉えている。
8. 救世軍人は愛餐会をもつことにより、家庭でも小隊でも食事を聖なるものとして捉え、主の犠牲的な愛を覚える機会とするよう奨励する。
9. 救世軍は、このような機会について、特定の言語や行為を儀式化しないのであれば、それぞれの文化に沿って変化、発展させることは奨励する。
10. 通常の救世軍の方式に従い、そのような機会や催事をもつ時には、形式や回数を規定しないほうがよい。

聖礼典の理論的根拠

万国霊的生活委員会は、聖礼典に対する救世軍の立場について、広範囲にわたって議論をおこないました。その経過は、恐らく、これまでのわたしたちの活動の中で最も深く広く大きなものとなりました。神学的に掘り下げる討論では、委員たちによる研究発表を聞き、質疑応答し、聖書的、教義的、そして歴史的な見解から、救世軍の立場を議論しました。

世界中の救世軍人から、数多くの書物、学術書、論文が届き、議論を活発にしました。レスリー・ニュービギン司教 (Bishop Lesslie Newbigin) 及びナイジェル・ライト博士 (Dr Nigel Wright) などの学者は、カギとなる資料を読んでコメントしてくれました。ジョン・オースティン・ベイカー司教 (博士) は、重要な論文を読んで、委員会に対して独自の回答を寄せてくれました。議論の幅は、委員会の国際的なメンバーや、世界中で宣教や多様な奉仕に従事する救世軍人から寄せられた、様々な文化を反映した意見によって担保されました。

議論は、見解の一致を見るまで続けられました。委員たちは共通理解を得ようとしていましたが、結論を急いで妥協で賛同したり、議論を短縮したりはせず、信仰をもって聖霊の導きを待ちました。

ローマ・カトリック教会の7つの聖礼典 (秘跡) は、幼児及び回心者の洗礼、司教による堅信、告解とゆるし、

病者の塗油、叙階、結婚、そして聖体拝領です。

プロテスタントの伝統をもつ教会では、聖礼典は2つだけのところが多くなります。ルターは「厳密に言えば、神の教会には洗礼とパンの2つの聖礼典しかない」と述べています。

「聖礼典」の意味がこの文字どおりであるなら、救世軍には洗礼式もパンを割く儀式もないので、聖礼典はないということになります。

しかし、過去においても、また現代でも、もっと広い意味で捉える考え方があります。聖アウグスチヌスが提唱した有名な2つの「聖礼典」の定義というのがありますが、それは「聖なるものであるという印」と「見えない恵みを見えるようにする印」です。救世軍人には独自の「聖なるものであるという印」がありますし、軍旗や恵の座などの特徴は「見えない恵みを見えるようにする印」であると言えます。さらに近年、ジョセフ・マルトス (Joseph Martos) により「どのような儀式、あるいは物、人、場所であろうと、それが聖なるものや秘儀を表す象徴であるなら、それを聖礼典として扱うべきである」と表明されました。これらの定義によるならば、救世軍は過去から現在に至るまで聖礼典をもつ団体だと言えます。宗教における象徴的な価値について、わたしたちは否定をしません。

ただし、伝統が教義の成立を決定づけることについては、受け入れることができません。クリスチャンの信仰及び行動の規範となるものは、旧新約聖書に基づくもの以外であってはならないと考えるからです。

「聖礼典」という言葉は、旧約にも新約にも見つかりません。洗礼とパンを割く儀式に結びつくような、いわゆる聖礼典そのものの概念はありません。さらに深く「聖礼典」という言葉の由来や起源を探るなら、以下のような点が浮かびます。

「聖礼典 (サクラメント)」という言葉はラテン語のサクラメントウム (sacramentum) が語源です。サクラメントウムとは、ギリシア語のミステリオン (mysterion) を訳したもので、ウルガタ聖書 (ラテン語の聖書) の中で使われました。ミステリオンには、洗礼やパンを割く儀式の意味は全くありません。コロサイの信徒への手紙の中でパウロが明確に使っています。コロサイの信徒への手紙2章2節で「神の秘められた (ミステリオン) 計画」と言っており、「(計画である) キリスト」とつながり、また1章27節ではこのミステリオン、秘められた計画は、「あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望」であると述べています。

パウロは「ミステリオン」という言葉を、ヘレニズム的な神秘主義の宗教における秘儀と対比させるために使っており、キリスト教の信仰では「あなたがたの内におられるキリストの希望」が栄光となり、超越的な存在である神に対する思いを起こさせるものとして使っています。しかし、2世紀の終わりには、テルトゥリアヌスのような学者が現れ、「ミステリオン」や「サクラメントウム」という言葉を宗教的な文脈で使うようになりました。(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第20回「家庭内虐待」(1)

家庭内虐待についての見解表明

救世軍は家庭内虐待及びそのような振る舞いや態度を常態化する考えに反対します。いかなる虐待や暴力も、人々に対する神のご計画に反するものであり、受け入れられるものではありません。

家庭内虐待は男性も女性も経験することではあります。女性が経験する割合のほうが高いです。国民性や宗教観のために、女性が男性より劣る者とみなされることがあり、その結果、虐待が容認されてしまうことがあります。家庭内虐待がおこなわれるのを見て育った青少年たちは、彼ら自身が虐待の犠牲者であり、長期にわたって身体的、精神的健康に問題を抱えることとなり、彼らの将来の人間関係において暴力を振るう危険もあるのです。このような理由から、救世軍は子どもたちを心にかけ、彼らを守ることに力を注ぐのです。

家庭内虐待は、伝統的な性別役割を利用した力と支配の行為であり、それ自体が暴力と虐待として現れます。救世軍は恵み深い神の愛を示し、できる限り、博愛の精神で相談に乗り、手助けをします。

救世軍は家庭内虐待の犠牲者たちの側に立ち、回復を求める被害者を力づけます。彼らを虐待の状況から保護し、そこから他の場所に移し、虐待する人々の責任を明らかにするよう努めます。

救世軍は、人々がお互いに尊敬し合い、健全な関係を築くことができるよう努め、いかなる家庭内虐待に対しても反対の声を上げます。

見解表明の背景と状況

家庭内虐待は世界的な公衆衛生の問題であり、人権の侵害です。この見解表明の目的は、家庭内虐待は、家族や親族に対して、権力をもち、支配しようとする、またそのためにとる態度と言えるでしょう。虐待はいろいろな関係性の中で起こります。それは、現在の、または、過去の親密な関係、もっと広い家族関係。それは、年齢、人種、性別、性的指向、信仰、障害、社会経済的背景、教育水準、カースト、階級などです。

家庭内虐待にはいろいろな形態があり、身体的、性的、情緒的、心理的、経済的、霊的虐待などが含まれます。虐待のさまざまな形態が同時に起こることもあります。家庭内虐待に次のようなものが含まれることもありますが、それに限られるわけではありません。支配的で威圧的な態度、物理的暴力、家族の決定事項を定める過程で特権を用いること、強制された結婚、婚姻関係による虐待など。家庭内虐待には、意図的に恐怖感を抱かせたり、脅したり、ごまかしたり、心を傷つけたり、自尊心を傷つけたり、非難したり、体を傷つけたりも含まれます。

家庭内虐待はどのような国、文化、宗教、部族、階級においても起こります。文化による多様性はあります。ある国々では、族長の文化やそれに付随する態度などが、家庭内虐待の重要な要因となるのです。

家庭内虐待は教会の中においても、外においても、見られるものです。一般人と教会に行っている人の割合は変わらないことが調査の結果でわかります。

虐待の結果は広範囲に及び、人間の体、心、霊に打撃を与え、すべての関係に影響を与えます。家庭内虐待はその犠牲者と、それを見たり聞いたりした人に、深刻で、致命的な結果を残します。家庭内虐待からの癒しには時間がかかります。

時には、力がなくて虐待から逃れられないと考えて、虐待されるままになる人もいます。しかし、家庭内虐待を受けたままになる人には、次のようなさまざまな理由があります。

- 恐怖
- 拒否
- 恥
- 家族の恥になる
- 虐待されたと気づいていない
- 共同体の中からの支援や保護がない
- きっと事態は改善されるという希望
- 家族内の安定を保とうとする努力
- 自分が家を出たら経済的に困る
- 他の人たちからの主観的で役に立たない助言
- 宗教上の約束を守ろうとする思い
- 文化的な信念や慣例を守ろうとすること
- 家族というものについて聖書が教えていることを誤解すること

社会が心に留めなければならないことは、すべての人が人間関係において、不安を感じないで過ごす権利があるということ、その人がどういう人であるか、その人が社会に何をもちたか認めることなのです。家庭内虐待を見て育った子どもたちについても同様のことが言えます。

救世軍の立場の土台となるもの

聖書はすべての人が神にかたどって創造され、生来の価値と尊厳をもっている(創世1:27)ことを明らかにしています。また、聖書は自己犠牲の愛に表された(フィリピ2:5~8)健全な人間関係の模範と、命溢れる生活(ヨハネ10:10)を示し、そこでは家族の一人ひとりが等しく価値があり、尊敬される(ヨハネ3:1~3、コリント12:12~27)としています。

私たちは神の民として、他の人々に対する態度や振る舞いがイエスに似たものでありたいと思います(フィリピ2:5~8)。それと共に、クリスチャンはすべての人間関係において、イエスの行動と教えを映し出すようにと招かれています。憐れみの思い、親切、謙遜、柔和、忍耐(コロサイ3:12~15)を示し、互いに愛し合う(ヨハネ3:23)ようにと。(続く)



救世軍公報

転任

補 米国総司令部 全米戦略推進部長
ステイブ・モーリス大佐
補 米国総司令部 全米霊的
生活成長部長
ウェンディ・モーリス大佐
二〇二六年五月一日付
米国総司令部 中將 マール・
ヒートウォール

補 日本軍国 司令官
西村保大佐補
補 日本軍国 軍国女性部書記
西村和江大佐補
補 日本軍国 書記長官
山谷真少佐
補 日本軍国 軍国女性部書記
山谷昌子少佐

二〇二六年五月一日付
西村保大佐補、西村和江大佐補
は大佐に、山谷真少佐、山谷昌
子少佐は大佐補に同日付で昇任
二〇二六年一月七日発令
大將 リンドン・バックingham
軍国指導者の交代を覚えてお祈
りをお願いします



西村保大佐補と西村和江大佐補

転任 (カッコ内は継続任命)

軍国女性部付 (週二日) の任を解く
(三月二十五日付)
平本征子大佐補
補 浜松小隊士官 (週四日)
太田晴久少佐
補 浜松小隊士官 (週四日)
太田廣美少佐
八幡小隊士官、(兼)西日本連隊【中
国九州地区】連隊長補佐 (週四日)
の任を解く (三月二十五日付)
樋口和光少佐
補 帯広小隊士官 (週三日)
眞鍋和枝少佐
補 文書部付、(兼)編集部付、
(兼)伝道事業部付【遠隔地任命】
(週四日)
樋口愛子少佐
補 伝道事業部付、(兼)医療部
チャプレン (週三日)
吉田恭子少佐
補 (兼)東日本連隊【北海道地区】
連隊本部付 (帯広小隊士官)
眞鍋精一少佐
補 伝道事業部付 (週四日)
吉田司少佐
補 山室軍平記念救世軍資料館
運営委員長 (兼)山室軍平記念資
料館長
石川和男少佐
補 山室軍平カレッジ副校長
(兼)医療部チャプレン
山谷昌子少佐
文書部長、編集部長の任を解く
(コミュニケーション部長、(兼)司令
官部付)
山谷真少佐
補 熊谷小隊士官助手 (週三日)
山本克己少佐
伝道事業部付、軍国 CCM 書記の
任を解く (婦人寮施設長、(兼)人身
取引対策室長)
石川節子少佐

霊的生活成長部長の任を解く
ウェンディ・モーリス大佐
補 社会福祉部長 (兼)災害対策室
長
(兼)レボリューション・ジャパン・
ディレクターの任を解く
石坂臣司少佐
補 東日本連隊女性部書記
(兼)レボリューション・ジャパン・
ディレクター補佐の任を解く
石坂奈緒美少佐
補 世光寮施設長、(兼)社会福祉
部長補佐
石川一由紀少佐
補 (兼)軍国 CCM 書記 (軍国女
性部書記補佐、(兼)人事・教育部付
(兼)引退士官係、(兼)銀星章書記)
石川芳子少佐
補 (兼)東日本連隊本部事務担当
(西新井小隊士官)
三澤良子少佐
補 (兼)霊的生活成長部長代行
(人事・教育部長、(兼)山室軍平カレ
ッジ校長代行)
添田美和少佐
補 東日本連隊長補佐
中島美和少佐
補 (兼)財産部長 (副財務管理部長
勝隆隆少佐
補 文書部長、(兼)編集部長 (兼)
月島小隊士官
平本祐子大尉
補 京都小隊士官 (兼)西日本連隊
本部付)
高橋暁子大尉
補 伝道事業部長、(兼)東日本連
隊本部付 (兼)横濱小隊士官 (四
月十三日まで)
鈴木智博大尉
補 東日本連隊長 (兼)横濱小隊士
官 (四月十三日まで)
鈴木眞理子大尉
補 札幌小隊士官、(兼)札幌地区
保育園チャプレン、(兼)東日本

連隊【北海道地区】連隊本部付
柞山順子大尉
補 (兼)東日本連隊本部付 (軍国
青少年部長、(兼)コミュニケーション
部フアンドライジング担当)
朝澤義人大尉
補 東日本連隊本部付 (兼)軍国
青少年部付)
朝澤まりこ大尉
補 (兼)東日本連隊青少年部書記
(杉並小隊士官)
樋口潔大尉
補 (兼)男子社会奉仕センター付
(上野小隊士官)
吉田慎也中尉
日本軍国組織の再編の一環とし
て、東京東海連隊は「東日本
連隊」と呼称を改める。同時に、
北海道連隊を「東日本連隊【北
海道地区】」とする。
連隊管轄の小隊・分隊は、
関東東北連隊・桐生小隊、熊谷
小隊、浪江小隊、若松小隊、長
野分隊
東日本連隊・遠軽小隊、函館小
隊、神田小隊、江東小隊、大森
小隊、上野小隊、川口小隊
西日本連隊・高知小隊、西成小
隊、八幡小隊

補 軍国女性部書記 (兼)山室軍
平カレッジ副校長)
(兼)医療部チャプレンの任を解く
山谷昌子少佐
補 書記長官 (兼)コミュニケーション
部部長
(兼)司令官部付の任を解く
山谷真少佐
補 軍国女性部会長 (兼)医療部
長
西村和江大佐補
以上
二〇二六年五月一日付
補 男子社会奉仕センター施設
長 (兼)山室軍平記念救世軍資料館
運営委員長、(兼)山室軍平記念資料
館長
石川和男少佐
二〇二六年六月一日付
二〇二六年二月五日発令
司令官
大佐 ステイブ・モーリス

菊池誠新兵軍曹 天に召さる



京橋小隊の菊池誠新兵軍曹は、2026年1月27日(火)午前4時45分、天に召されました。81歳でした。

菊池新兵軍曹は17歳で横須賀小隊の野戦に出合い小隊に通い始め、19歳の青年デーの恵の座で祈り救いの確信を得、

兵士入隊しました。京橋小隊の日沖三枝子さんと結婚し、築地に新居を構え京橋小隊に転籍。1989年、千葉県柏市に転居され、ご夫人と3人のお子さんと共に『ほしの子ども会』と家庭団の活動を2019年まで続けられました。2025年12月には55年の下士官永年勤続章を受けられました。抗がん剤治療をおこないつつ2025年7月までは聖別会に出席しておりましたが、体調が優れず、緩和ケア病棟に入院。その後、2026年1月から在宅緩和ケアに変更され、ご家族との貴重な時を過ごされました。

告別式は1月31日(土)午前10時30分より、救世軍京橋小隊会館にて、京橋小隊士官平本宣広少佐の司式で執りおこなわれました。ご遺族の上に主の御慰めと平安をお祈りいたします。

3月15日(日) 士官候補生サンデー

士官候補生のため、山室軍平カレッジの働きのために、また、士官志願者、献身者がさらに起こされるようお祈りください！



創立者 ウィリアム・ブリス 大将 リンドン・バッキンガム(万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 スティーブン・モーリス(救世軍本営 東京都千代田区)

https://www.salvationarmy.or.jp

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

江東小隊、士官の離日

2025年12月28日(日)、江東小隊聖別会は、ダニエル&メリッサ・テンプルマン-トゥエルズ少佐夫妻とトビー君、アビーちゃんの送別サンデーとしておこなわれました。多くの戦友、士官学校のスタッフ、候補生も集い、ご一家のこれまでの奉仕に感謝し、これからの導きを祈りました。メリッサ少佐がイザヤ61:1~7より「二倍の祝福」と題しメッセージをしました。聖別会後は送別昼食会の時をもちました。

同日夜、成田空港で司令官スティーブン・モーリス大佐夫妻や戦友士官の見送りを受け、ご一家はオーストラリアでの新任命に向け離日しました。



成田空港で

日本での3年間の活動と奉仕の機会に心から感謝を申し上げます。多くの方との再会、そして、初めてお会いする方々と共に働くことができたことは特権でした。先日の全国大会は大変特別な機会となり、日本における救世軍の将来に大きな希望がもたらされました。

オーストラリアという遠い国からではありますが、日本軍国のために、引き続きお祈りしております。

少佐 ダニエル・テンプルマン-トゥエルズ

3月11日 東日本大震災から15年

時間の経過とともに、復興や生活の再建状況は変わってきていますが、震災で大きな影響を受けた方々を覚え、記憶の継承がなされるよう、祈りましょう。

3月6日(金) 世界祈禱日

今年は、ナイジェリアの世界祈禱日委員会が作成した式文に基づき、「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」のテーマで祈りを献げます。

酒害強調週間

3月29日(日)~4月5日(日)



お酒は人生に深刻な悪影響を与えます。周りの人にも酒害について伝えましょう。

日本におけるアルコール消費量は、健康志向の高まりや若者のアルコール離れにより、近年減少傾向にあります。一方で飲酒運転による悲惨な事故もやまず、アルコール使用障害や依存症は依然として大きな問題です。救世軍は創立以来、アルコールなしの生き方を勧め、禁酒禁煙の主義を守っています。救世軍国際見解表明「アルコールと社会」はホームページで閲覧できます。

主催：軍国青少年部

ティーンズキャンプ2026

テーマ GOD BLESS ME

(ローマ8:32)

進級、進学前にみんな集まれ！
新しい一年、神様と一緒にスタートしよう！

日程：4月1日(水)~3日(金)

会場：奥多摩バイブルチャーレ

対象：12歳(小6)~19歳

※詳しくは青少年部からの案内をご覧ください

(取扱支部)

発行日及び定価

▼発行日

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

▼定価

福音版・一部 四〇〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円

振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者スティーブン・モーリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 有価会社コーチ印刷